様 式 2

平成２７年度総合的な教師力向上のための調査研究事業（初任者研修の抜本的な改革）

実施報告書

１　調査研究校の基礎情報

調 査 研 究 実 施 校 名		松茂町立松茂小学校
校　長　名	（ふりがな） 氏　　名	（　あきやま　　かずお　） 秋山　　和雄
連絡担当者	職　　名 （ふりがな） 氏　　名 電話番号	教　頭 （　あべ　　きよみ　） 阿部　　清美 ０８８―６９９―２２５０

２　調査研究校の状況　（平成２８年１月１日現在）

常　勤　教　員　数	３５人	うち，学級担任外教員数（１３　人）
再任用短時間勤務教員数	０人	※週　　時間勤務　　人 ※週　　日勤務　　人
非常勤教員数	０人	
学級数	２２学級	
２年目教員数	２人	
３年目教員数	３人	
初任者の属性等 （所属・校務等）	初 任 者（A）	３年１組　正担任 拾得物　道徳　書写
	初 任 者（B）	５年２組　副担任 家庭科主任　図書館教育主任
指導教員の属性等 （所属・校務等）	①指導教員（総括担当）	３年１組配属専科 ５学年配属ＴＴ教員
	○初任者Ａの	
	②指導教員（授業研修担当）	３学年配属専科（総括担当） ５年ＴＴ
	③指導教員（一般研修担当）	教務主任
	○初任者Ｂの	
	④指導教員（授業研修担当）	５年２組担任
	⑤指導教員（一般研修担当）	教務主任

３　指導体制等

３－Ａ）校内の指導体制

（１）　役割

職名等	役割分担
校長	○初任者研修推進の総括 ○初任者研修に係る校務の決定 ○初任者研修推進委員会の委員 ○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者
教頭	○指導体制の整備・校務立案 ○初任者関係者への指導・助言 ○初任者研修推進委員会の委員 ○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者 ○県教育委員会や市町村教育委員会との連絡調整
指導教員（総括担当）	○初任者研修全体のコーディネーター ○他の指導教員（授業研修担当・一般研修担当）と連携して初任者研修の全体計画を作成 ○初任者研修推進委員会の実施責任者
指導教員（授業研修担当）【初任者１名につき１名】	○授業研修のコーディネーター ○授業研修の年間計画を作成し，指導にあたる。 ○初任者と同じ学年配置とする。
指導教員（一般研修）	○一般研修のコーディネーター ○一般研修の年間計画を作成し，指導にあたる。
その他の主任等	○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者 ○初任者研修推進委員会の委員
その他の一般教員	○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者 ○２・３年目教員は，「ひよっこ会（初任者情報交換会）」のメンバー ○８年目程度までの教員は，「れんこんの会（若手教員情報交換会）」のメンバー

（２）　初任者研修推進委員会等
①学期に２回程度開催する。指導教員（総括担当）が主催する。
②構成員は，校長，教頭，各指導教員，その他の主任とする。
③初任者研修及び調査研究事業の進捗状況や成果・課題の整理と次の取り組みへの展望について話し合う。
④負担等を考慮した効果的な運営に努める。

（３）　「若手教師の情報交換会」等
①ひよっこ会とれんこんの会を月に１回程度実施する。
　偶数月はれんこんの会，奇数月はひよっこ会とする。
②ひよっこ会は，３年目の教員が主催する。れんこんの会は，お世話係担当となった者が主催する。
③情報交換会を実施し，研修を進めていく上での助言を得たり，悩みを話し合ったりする。

（４）　その他特に配慮した指導体制
①初任者が安心して研修が進められるよう，指導教員，学年団で指導・支援する体制づくりをするとともに，若手教師の会も並行して位置づけ，サポート体制を整える。

３－Ｂ）初任者の勤務内容等における配慮事項
①校内研修と連携を図る。
②３部会（学力向上推進部，心の教育推進部，体力向上推進部）を同時に開催し，児童の課題について話し合い，全体に伝え発達段階に応じて実践する。

４　調査研究事業の実施状況

月	各調査研究校における実施状況 （初任者研修に係る取組状況の記録）	実施状況（徳島県教育委員会実施分）
４月	・4/20　初任者研修推進委員会 「調査研究事業実施計画書」検討 ・4/24　初任者研修推進委員会 「校内研修，講師依頼計画」	・4/30　調査研究校 「調査研究事業実施計画書」提出
５月	・5/14　校内研修 「学級経営について」 （講師：学力向上支援派遣　井上隆先生） ・5/22　ひよっこ会	・5/19　第１回検討会議 ・5/29　第１回連絡協議会
６月	・6/22　れんこんの会	

７月	・7/6　初任者研修推進委員会 「成果と課題，今後の計画について」	・7/13　学校訪問
８月	・8/28　れんこんの会 「タブレット講習会」 （講師：町社会教育指導員　飯田史男先生，ジャストシステム社員）	
９月	・9/18　ひよっこ会	
10 月	・10/8　校内研修 「ＬＩＦＥ体操教室」 （講師：林巧先生）	
11 月	・11/4　初任者研修推進委員会 「進捗状況と今後の計画」 ・11/26　校内研修 「潤いのある学級・学校づくり」 （講師：鳴教大　久我直人先生）	・11/12　学校訪問 ・11/18　先進校視察（福井県木田小学校）
12 月	・12/3　校内研修 「楽しい理科授業の進め方について」 （講師：前教頭　近藤栄司先生） ・12/18　ひよっこ会 ・12/21　れんこんの会 「先進校視察報告」	・12/17　第２回連絡協議会
１月	・1/18　ひよっこ会 ・1/2 初任者研修推進委員会 「調査研究事業実施報告書」検討 ・1/28　校内研修 「人権教育について」 （講師：柳島隣保館長　笹川忠博先生）	・1/29　第２回検討会議
２月	・れんこんの会 「『ひかり』を使っての人権学習について」	・2/5　調査研究校 「調査研究事業実施報告書」提出 ・2/24　第３回連絡協議会
３月	・ひよっこ会 ・初任者研修推進委員会 「１年間の成果と課題」	

5　調査研究の具体的な内容と成果･課題

視点(1)　初任者研修の校内指導体制の確立と充実について

①　初任者指導のインセンティブが働く校務や学校全体で初任者に関わるための指導・評価の手立て

ア 実際に取り組んだ内容

〇指導教員の負担を軽減し，初任者研修のコーディネートや指導に専念できるようにした。

・一人で担当するもち時間を減らし，初任者のＴＴとして入る時間を設けるなど時間割を工夫して編成し，初任者の指導に専念できるように配慮した。

・総括担当の指導教員が二人の初任者と日常的に関われるように，時間割や校務分掌を工夫した。

・担当の校務分掌も複数制とし，分担して校務をこなせるようにした。

・職員室の配置を初任者の隣とするなど，いつでも初任者の相談にのったり指導したりできるような環境づくりを工夫し，きめ細かい指導が行えるようにした。

・行事等で初任者研修ができなかった時は，日時を変更するなど柔軟に実施した。

〇教員ごとに役割分担をし，得意な分野を生かして初任者研修に関われるようにした。

・初任３年目までの会「ひよっこ会」では，３年目の教員が会の運営と進行を務めた。

・８年目までの会「れんこんの会」では，メンバーの中から二人の教員が会の運営と進行を務めた。

・中堅以上の教職員は，一般研の講師や授業公開などで初任者と関わった。

〇初任者の課題を把握し，内容に応じて分担し，多くの教員が指導にあたった。

・授業や生徒指導上の課題については，学年主任を中心に学年団で，時には生徒指導主任や管理職も交えて共に考えたり対応にあたったりした。

・校務分掌を複数制とし，主の教員や先輩教員から指導を受けながら校務をこなせるようにした。

・指導にあたった教員は，よかった点やうまくいかなかった点を具体的に伝えるようにした。また，うまくいかなかった点については，共に原因や改善点を考えるようにした。

〇学期の終わりには，アンケートと自由記述で自己評価を行い，指導のスキルを振り返らせた。

〇初任者研修便りを発行し，初任者研修の実施状況を全職員に知らせた。

〇初任者だけでなく，若手の教員も共に伸びていけるように研修を組み立てた。

・れんこんの会のメンバーにどのような研修をしたいかアンケートをとり，若手教員の必要感，困り感に添えるように研修を行った。

イ 成果

〇指導教員として，初任者の学級の様子を毎日観察し，きめ細かい指導をすることができた。行事等で研修ができなかった時は，日をかえてとることができ，初任者と十分に関わることができた。

〇多くの教員が何らかの形で，初任者研修に関わることで，初任者研修への理解を深めるとともに，初任者研修自体も深まりのあるものになった。

○周りによくにた年齢の教職員がいるので，目指すよいモデルとなっている。
○先輩の教員とともに校務を行うことで，実務を具体的に学ぶことができた。
○いろいろな学年の授業を見ることで，子どもの成長の様子・学習の系列などを知ることができた。また，学年の発達段階に応じた指導方法を学ぶことができた。
○学期末に自己評価をすることで，来学期への目標をもつことができた。
○奇数月を「ひよっこ会」，偶数月を「れんこんの会」とし，企画委員会と並行して開催したことで，活動が定期的にできるようになり定着してきた。

ウ 課題
○研究授業前になると協議の時間だけでは，十分な指導をすることができなかった。放課後初任者と話し合うとなると勤務時間外になることもあり，時間の確保が難しかった。
○ひよっこ会，れんこんの会の開催について，まだ自主的な会になっていない。リーダーを中心に自主的な運営ができるよう，メンバーの意識を高めていく必要がある。
○副担任という制度が小学校では馴染みがうすいため，児童への関わり方・指導で，なかなか統率力を発揮できず，苦労することが多かったようである。
○指導者が初任者の授業・学級経営について，どのように評価していくか評価基準を考える必要がある。評価の方法や尺度及び評価結果の活用方法が十分確立されていない。

---

② 初任者研修推進委員会等の効果的な運用
ア 実際に取り組んだ内容
○調査研究事業の進捗状況や成果・課題について，初任者の状況について話し合った。
○副担任について，来年度担任をすることを見据えて，どのように研修を進めていくか話し合った。
○初任者研修の実施状況や計画を「初任者研修だより」として発行し，全職員に知らせた。

イ 成果
○それぞれの立場から初任者研修や初任者の状況について話を聞くことで，初任者の担任・副担任としての成長の様子や課題をより一層詳しく把握することができた。
○課題解決のため，今後の指導について共通理解をすることができ，ＰＤＣＡサイクルで進めることができた。

ウ 課題
○行事等のため日程調整が難しく，十分な時間確保ができなかった。
・推進委員会がなくても気になることや気付いたことがあると，伝え合うことはできていたが，話し合いを深めるためにも定期的に開催していく必要がある。

---

③ 初任者の状況把握と初任者に対する相談体制の整備
ア 実際に取り組んだ内容
○指導教員は，初任者の課題を踏まえて具体的に助言するとともに，初任者の理解者として

関わるように心がけ，相談しやすい雰囲気になるよう努めた。
○生徒指導・保護者対応などでトラブルが生じた時には，学年主任や管理職を交えて対応にあたった。
○学級で生じたトラブルは，どんな些細なことでも報告・連絡・相談するよう指導した。
○指導教員同士で初任者の状況について連絡を取り合い，それぞれの立場でフォローに努めるようにした。
○初任者の状況把握ができるよう，コーディネート担当の指導教員が二人のクラスに専科やＴＴとして毎日入れるよう時間割を工夫した。
○同年代の教員とグループ研修をする場を設定し，気兼ねなく悩み等を相談できるようにした。
○ひよっこ会のメンバーでバディーを組み，それぞれの学級を訪問したり，一緒に事務をしたりと相談しやすい体制作りをした。

イ 成果
○学級で起こったトラブルの報告・連絡・相談が確実に行えるようになり，指導者側も初任者の状況がよく把握できた。
○トラブル処理には，学年主任や生徒指導主任・管理職が共に対処にあたり，初任者を支援することができた。
○拠点校方式と異なり指導教員が常駐しているので，すぐに指導を受けることができ初任者も安心して業務を果たすことができた。
○「ひよっこ会」「れんこんの会」で若手教員の絆を深めることができた。

ウ 課題
○相談体制は整備したが，日々忙しいため十分相談できたか疑問である。
○学校全体で初任者を育てながら，共に学び，高め合っていく体制をさらに検討していかなければならない。

(2) 研修等の内容の充実について

① 初任者の年間の勤務，初任者の校務（担任・副担任・TT 担当等）を見通した研修内容や指導方法の工夫

ア 実際に取り組んだ内容
○年間の学校・学年行事の流れに沿って研修内容を精選した。
・遠足・運動会・個人懇談等の大きな学校行事について，事前に関連する内容を一般研修で扱った。
・学年行事については，学年主任を中心に，学年で計画・準備・実施を行った。
・実際の活動に際しては，授業担当の指導教員が共に参加し，助言した。
○担任をしている初任者には，校務を軽減し，担任業務に専念できるようにした。副担任を

している初任者には，主要校務を任せ，校務を適正に処理できる能力を育てるようにした。
〇授業診断・記録分析を生かした指導改善
・研究授業に際しては，授業記録・板書記録をとり，協議に生かしている。
・学年団で協力して事前授業を行い，指導改善できるようにした。
・校内職員の協力を得て先輩職員の授業を参観し，授業に生かせるようにした。
・授業担当の指導教員が，きめ細かい授業観察を行い，指導助言や示範授業を行った。
〇次年度以降を見据えた研修
・副担任も該当学年の学級事務に関わらせ，校務処理を具体的に学ばせる。
・公簿については，一般研で指導教員から指導するとともに，学年主任と共に作業し，具体的に指導した。
〇ひよっこ会で各々が取り組みたい課題の共通理解を図った。
・次回のひよっこ会までに取り組みたい自分の課題について知らせ，次回にはその課題解決にどれくらい取り組めたか，また，新たな課題は何か考え，お互いに励まし合えるようにした。
〇参観授業を計画するときには，全学年・いろいろな教科となるように計画した。また，授業後，授業者と協議をする機会を設けた。
・手作りの教材を見せてもらったり，励ましのシールを見せてもらったりして，学習スキルを学ぶことができた。
・どのようなめあてを持って指導に取り組んだか，指導者の授業への思いを知ることができた。

イ 成果
〇初任者も見通しをもって活動に取り組めた。
〇複数の教師で子どもを見ることにより，安全面に配慮することができた。
〇複数の教師で活動することで，初任者の負担を軽くすることができた。
〇研究授業に向けて，指導教員から指導を受けたり，学年団で話し合ったりすることで，教材研究が深まり，授業力向上につながった。
〇いろいろな学年の授業を見ることで，子どもの発達段階が分かり，発達に応じた指導の仕方が分かった。
〇公簿の扱いなど学級事務について，実践を通して学ぶことができた。
〇若手教員の会をもつことで，職員同士の交流が深まり，仕事のことなど話しやすくなった。
〇研究授業，参観授業，若手教員の会等何らかの形で，たくさんの教員が初任者研修と関わることができ，初任者研修に対する理解を深めることができた。
〇先輩教員と話をすることで，自分だけでなくみんな悩んだり，苦労したりしているんだなと実感することができた。

ウ 課題
〇週２時間，一般研の時間になっているが，学校行事，学年行事などで実施できないことがあった。その時は，放課後に実施したりしているが，時間の確保が難しい。

○参観授業を計画する時，指導教員が後補充に入れるようにする時間調整が困難であった。

② 0JT による研修と直接指導による研修のバランス

ア 実際に取り組んだ内容

○副担任

・２学期からは，将来担任することを見すえて，出席簿・通知表の記入を行った。
・個人懇談を担任とともに行い，自分が受け持った学習の様子について話をした。
・他学級への入り込みは，経験のある教員に指導を受けながら活動している。
・算数，理科，社会は単元まるごとまかされ，授業を行い，スキルをみがいた。
・図書館教育主任として，図書委員会の運営や本の購入を行った。出張にも学校の担当者として参加し，業務を学んだ。

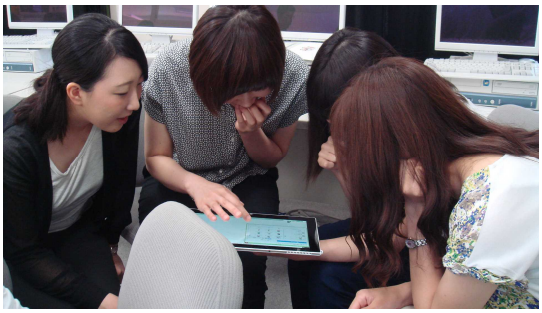
○担任

・校外学習の際には，学年主任と共に，事前打ち合わせ等を行い，計画段階から校外学習の手順を学んだ。
・生徒指導上のトラブルがあった時には，学年主任と共に生徒指導を行ったり，保護者対応をしたりしている。時には，生徒指導主任，管理職を交えての相談体制をとることができた。
・学年で相談しながら，学習に必要な教材・教具を準備したり作ったりした。

○直接指導

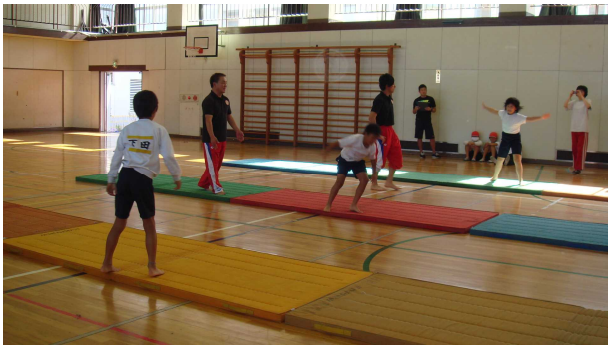
・授業力の向上を図るため，外部の専門的な知識をもった講師を招き，教師としての知識を習得できるよう研修を計画・実施した。
・れんこんの会のメンバーにアンケートを実施し，要望やスキルに配慮した研修を工夫した。
・先進校視察の成果をれんこんの会と職員会で伝えた。

「タブレット講習会」（講師：町社会教育指導員　飯田　史男　先生，ジャストシステム社員）



飯田先生から「理科におけるデジタル機器の活用」について講義をしていただいた後，ジャストシステムの方にタブレットの使い方について教えていただいた。

「器械体操教室」　　（講師：ＬＩＦＥ体操教室　林　巧　先生）



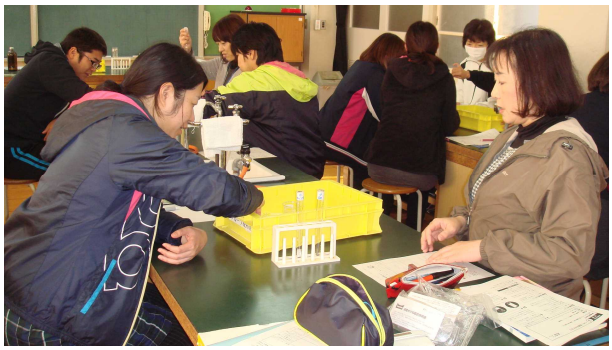
２・３・４校時，４年生児童を対象に，前転・後転・側転を教えていただき，教員は交代で指導の様子を参観した。

放課後は，校内研修として実技に取り組み，補助の仕方について学んだ。

「潤いのある学級・学校づくり」（講師：鳴門教育大学　教授　久我　直人　先生）

８年目未満の教職員を中心に授業を見ていただいた後，「潤いのある学級・学校づくり」について講義をしていただいた。

「楽しい理科授業の進め方について」（講師：前教頭　近藤　栄司　先生）



実験「水溶液と金属」うすい塩酸中での金属（鉄・アルミ）の変化の様子を調べた。理科室・実験用具等の正しい使い方，授業の進め方について教えていただいた。

「人権教育について」（講師：柳島隣保館長　笹川　忠博　先生）

「人権とは何か」共に考えたり，「フィールドスタディー」について教えていただいたりした。地域の先人達は，厳しい部落差別に耐え，地域の人々の命と生活を守り豊かにしていくために，知恵を出し合い，協力し，数多くの問題を解決してきたことを学ぶことができた。

イ　成果

○日々授業実践を重ねることで授業力が向上している。

○単元全体をすべて指導することで，責任をもって授業に臨むことができている。

○チームを組んでトラブル処理にあたることで，初任者の負担を軽くすることができた。また，組織対応のあり方を学ぶことができた。

○初任者だけでなく職員全員で研修に取り組むことができ，職員全体のスキルアップにつながった。

ウ　課題

○ＯＪＴと直接指導のバランスを図りながら，初任者に過度な負担がかからないように努めてきた。さらに，初任者のニーズを細かく汲み取って研修に取り入れていく必要がある。

③　研修のノウハウの蓄積方法

ア　実際に取り組んだ内容

〇研修方法，内容等を文書ファイルとして保管し，必要に応じて誰もが活用できるようにした。

〇写真で記録を残した。

イ　成果

〇研修方法，内容等について文書ファイルとしてだけでなく，データとしても保管し，誰もが閲覧したり利用したりできるようにした。

〇昨年度，作成した研修集録を今年度の職員にも利用し，役立てることができている。

ウ　課題

〇保管しているファイルやデータについて全職員に周知し，活用できるようにする。

---

④　その他

ア　実際に取り組んだ内容

〇三部会を研修の中に組み込み，各部で話し合ったことや全学年で取り組む内容を全体に伝え，共通理解を図り実践した。

・学力向上推進部・・・・ノートの書き方
　　めあては赤で，まとめは青で囲む。
　　教室前に掲示している聞く･話すの話形を活用する。

・心の教育推進部・・・あいさつの励行
　　児童の呼び方は「～さん」

・体力向上推進部・・・みんなで遊ぶ日を設ける。

イ　成果

〇若手教員にとって，ノート指導や生活指導・学級経営の参考となった。

〇どのクラスも同じ歩調で進めることで，入り込みなどで授業に入った時も学習を進めやすかった。

ウ　課題

〇初任者でも意見を出しやすい少人数での話し合いの場であるが，表面的な議論に陥りやすく改善を図りたい。

※ 本報告書のための補助資料がある場合は，別途添付すること。

実施報告添付資料

１．ひよっこ会の活動の様子

（感想）

・若手の会なので気兼ねなくいろいろな話をすることができて気持ちの面で楽になった。
・若手の先生同士の結びつきが強くなり，日頃から話せるようになった。バディ制度によって，バディを組んだ先生との関わりが増え，日頃の悩みなども話せた。
・バディ制度をうまく活用することができた。自分のことを気にしてくれる人がいるという安心感があった。
・バディのクラスに行って話すのも息抜きになった。
・クリスマス会などイベントを通して会のメンバーと交流することができた。
・前年度より班員に声をかける機会が増えた。これは，バディ制度ができたためだと思う。
・他の先生が課題と感じていること，どのように解決していくのかを１年という長い期間見ることができた。自分自身も，人に課題を言っているため，意識して取り組むことができた。
・企画委員会の裏を使うことで，時間的にゆとりが持てた。
・ひよっこ会の教員同士で授業を参観に行くとか，他の先生の授業を見にいくなどの授業力向上にも努めたい。

２．れんこんの会

・多くの研修がありとてもためになった。
・アンケート結果をもとに研修が組まれていたので，本当に学びたいことを知ることができた。
・体験的に学ぶことができた。どれも自分が児童役になって研修を受けたので，児童の気持ち（特に苦手な子）も実感することができた。
・教科に関しての研修ですぐにでも実践したいと思えるものが多く勉強になった。
・企画の裏をひよっこ会とれんこんの会で交互に使っているので，どちらも深めきれないままで終わってしまっているのが残念である。

３．研究授業

初任者Ａ　　１学期（算数）

２学期（国語）

初任者Ｂ　　１学期（国語）

２学期（家庭科）

４．本年度の取り組み

（１）初任者の基本的体制

担任・・・・担任業務に専念しやすいように，授業時数を減らし，研修・授業準備の時間を多く確保できる体制をつくり，学級経営能力や授業力の向上を図った。

副担任・・・主要校務を主任として担当し，校務を適正に処理する能力を育てるようにするとともに，担任学年の他学級の授業を担当させ，児童理解や授業力を向上させる体制をつくった。

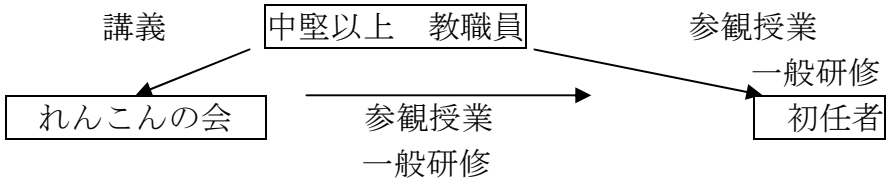
（２）ひよっこ会

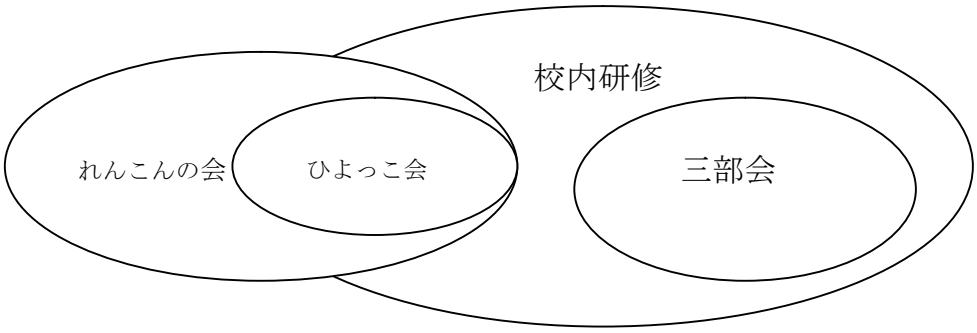
○ ●　　○ ●　　○ ○　　●は初任者

・バディシステム導入

・次回のひよっこ会までに取り組みたい自分の課題の設定・交流

（３）研修について

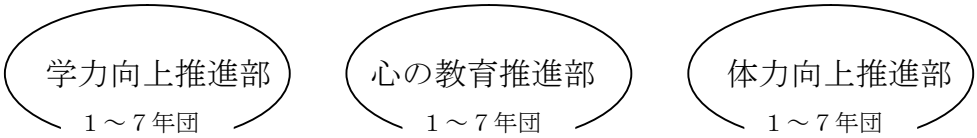




・ひよっこ会，れんこんの会を企画委員会をしている時に行う。
　（奇数月はひよっこ会，偶数月はれんこんの会）
・れんこんの会のメンバーにアンケートを実施し，希望の多い内容を校内研修の中で実施。
・昨年度末作成した研修集録の活用。
・三部会を研修の中に組み込む。

（４）「学びの共有作戦」

①三部会　ＰＡＲＴ１



・各部で話し合ったことや全学年で取り組む内容を全体に伝え，共通理解を図り実践していく。
・研修主任は話し合った内容をまとめて配布。

目に見える成果だけでなく，地味なこともみんなでする，続けてする，とことんするを合い言葉

②統一大会で学んできたことの報告会　ＰＡＲＴ２

・週２回の終礼の最後に，毎回，１教科ずつ参加者が報告。公開授業や講演から学んだことを共有していった。

様 式 2

平成２７年度総合的な教師力向上のための調査研究事業（初任者研修の抜本的な改革）

実施報告書

1　調査研究校の基礎情報

調 査 研 究 実 施 校 名		北島町立北島小学校
校　長　名	（ふりがな） 氏　　名	（かわにし　たかお） 川　西　　隆　夫
連絡担当者	職　　名 （ふりがな） 氏　　名 電話番号	教　頭 （すみだ　かつひろ） 住　田　　克　弘 088（698）2250

2　調査研究校の状況　（平成２８年１月１日現在）

常　勤　教　員　数	３９人	うち,学級担任外教員数（　１７人）
再任用短時間勤務教員数	人	※週　　時間勤務　　人 ※週　　日勤務　　人
非常勤教員数	人	
学級数	２２学級	
２年目教員数	２人	
３年目教員数	２人	
初任者の属性等 （所属・校務等）	初 任 者（A）	２年Ｃ組担任・金管バンド(夏休み)
	初 任 者（B）	４年Ｃ組副担任・金管バンド (夏休み)
指導教員の属性等 （所属・校務等）	①指導教員(総括担当)	研修主任
	○初任者Ａの	
	②指導教員(授業研修担当)	２年団配属専科教員・教務主任
	③指導教員(一般研修担当)	総括担当と同じ
	○初任者Ｂの	
	④指導教員(授業研修担当)	４年Ｃ組担任・環境教育
	⑤指導教員(一般研修担当)	総括担当と同じ

３　指導体制等

３－Ａ）校内の指導体制

（１）　役割

職名等	役割分担
校長	○全教職員への指導・助言 ○初任者研修推進の総括 ○初任者研修に係る校務の決定 ○初任者研修推進委員会の委員 ○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者
教頭	○全教職員への指導・助言 ○指導体制の整備・立案 ○初任者研修関係者への指導・助言 ○初任者研修推進委員会の委員 ○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者 ○県教育委員会や市町村教育委員会との連絡調整　等
指導教員（総括担当）	○指導教諭として全教職員に指導・助言並びに支援をする。 ○初任者研修全体及び一般研修のコーディネーター ○一般研修の年間計画を作成し，指導にあたる。 ○他の指導教員と連携して初任者研修の全体計画を作成 ○初任者研修推進委員会の実施責任者
指導教員 （授業研修担当）	○授業研修のコーディネーター ○授業研修の年間計画を作成し，指導にあたる。
学年主任	○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者 ○初任者研修推進委員会の委員
その他主任並びに教員	○計画に基づく一般研修や授業研修の指導者 ○２・３年目の教員は定期的な意見交換会のメンバー （４名）

（２）初任者研修推進委員会等
①月１回程度，指導教員（総括担当）が主催した。
②構成員は，校長，教頭，初任者研修担当者，学年主任，その他主任等とした。
③協議内容は，初任者研修の進捗状況や初任者の様子，また，インフォーマル研修の連絡調整などであった。

（３）　「若手教師の情報交換会(オレンジの会)」等
①初めは総括の方で開催し，その後は，リーダーを中心とした自主的な運営に任せた。
②３年目までの教員６名が基本メンバーであるが，臨時教員を含めた若手教員１０名ほどがよく集まって情報交換し，親睦を深めていた。

（４）　その他特に配慮した指導体制
①初任者の研究授業・授業研究会には，たくさんの先生方に参加していただき，多くの助言をいただく中で，初任者だけではなく周りの教職員の授業力も向上するように努めた。
②年２回，全教職員を対象とした県教育委員会コンプライアンス推進室から講師を招いてのコンプライアンス研修を行い，教職員としての使命感・倫理観の確立を図った。
③初任者研修を中心に全教職員を対象とした教育講話を外部講師（鳴門教育大　久我教授）を招いて実施し，今日の教育課題をふまえた教育実践を行えるよう努めた。

３－Ｂ）初任者の勤務内容等における配慮事項
①教材研究・実践授業の準備等の時間を確保するため２名とも校務や授業時数を軽減した。
②初任者Ｂは，高学年の専科授業を担当させ，一人で授業を組み立てて行う機会を確保した。

４　調査研究事業の実施状況

月	各調査研究校における実施状況 （初任者研修に係る取組状況の記録）	実施状況（徳島県教育委員会実施分）
４月	4/17　初任者研修推進委員会を発足 4/30「調査研究事業実施計画書」提出 4/30　校内研修「学級経営」 講師　鳴門教育大　久我直人先生	4/30調査研究校「調査研究事業実施計画書」提出
５月	初任者研修推進委員会 初任者及び教員へのアンケート・聞き取りの実施（１回目）	5/19第１回検討会議 5/29第１回連絡協議会
６月	初任者研修推進委員会 6/4 校内研修「水難救助講習会」 講師　板野東部消防組合署員 6/11「コンプライアンス研修」 講師　県教委　立岩一彰先生	6/25教職員課学校訪問

	6/16　研究授業　初任者Ｂ　４年算数 6/17　研究授業　初任者Ａ　２年国語 6/25　校内研修「情報モラル」 講師　総教センター　切原宏和先生	
７月	初任者研修推進委員会	
８月	8/6.24.27　実技研修「図画工作」 日本語講師　森本美鶴先生	
９月	初任者研修推進委員会	
10月	初任者研修推進委員会 10/8　研究授業　初任者Ａ　２年算数 講師　付属小　久次米昌敏先生 10/22　研究授業　初任者Ｂ４年国語 講師　四国大　山本哲生先生	
11月	初任者研修推進委員会 11/26校内研修　授業研究会６年体育 講師　鳴門教育大　湯口雅史先生	11/12教職員課学校訪問 11/18先進校視察（福井県　木田小学校）
12月	初任者研修推進委員会 初任者及び他の教員へのアンケート・聞き取りの実施（２回目） 12/3　校内研修「コンプライアンス」 講師　県教委　立岩一彰先生	12/17第２回連絡協議会
１月	初任者研修推進委員会 1/21校内研修「エピペンについて」 講師　平野幹夫学校医	1/29第２回検討会議
２月	初任者研修推進委員会 2/23研究授業　初任者Ｂ　道徳 2/26研究授業　初任者Ａ　道徳 「調査研究事業実施報告書」提出	2/5調査研究校「調査研究事業実施報告書」提出 2/24第３回連絡協議会
３月	3/1校内研修「学級経営」 講師　鳴門教育大　久我直人先生 初任者研修の成果と課題	

5　調査研究の具体的な内容と成果･課題

視点(1)　初任者研修の校内指導体制の確立と充実について
①　初任者指導のインセンティブが働く校務や学校全体で初任者に関わるための指導・評価の手立て ア 実際に取り組んだ内容 ○初任者担当教員が初任者指導に専念できるよう，授業時数及び校務を軽減した。

○初任者が来年度以降も困らずに対応できるように一般研修やインフォーマル研修で幅広い研修を行い，土台作りをした。
○初任者の校務分掌には，先輩教員をつけ，指導をしながら仕事に取り組ませるようにした。
○初任者研修推進委員会を月１回企画会議の後に開き，初任者研修の進捗状況を報告するとともに，その月の大まかな予定を知らせ，理解と協力を仰いできた。

イ 成果
○初任者担当教員が初任者１名について１名ずつおり，月曜日から金曜日まで毎日指導できることから，初任者の状況に応じて寄り添ってサポートし，指導することができた。
○初任者にとって分からないことがあれば，すぐに相談できることがよかった。
○初任者の状況や研修の進捗状況を報告する機会をもったことで，その初任者に必要なことは何かを相談・協議することができ，共通理解を図り，連携して指導にあたることができた。

ウ 課題
○初任者研修推進委員会に参加している学年主任の先生方やオレンジの会のメンバーは，初任者の状況がよくわかり声かけもできるが，その中間に位置する先生方にも状況を知らせるために文書にして終礼等で配付するなどの対策が必要。

---

②　初任者研修推進委員会等の効果的な運用
ア 実際に取り組んだ内容
○初任者研修の進捗状況についての報告とその月の大まかな予定の連絡をした。
○初任者の悩みに対して具体的な解決方法や支援の方策を話し合った。

イ 成果
○初任者研修に対する理解が深まり，協力的な雰囲気が高まるとともに，他の学年の先生方も積極的に声をかけてくれるようになった。
○初任者の抱える悩みを知ることで，対処の仕方を考えて支援でき，初任者が一人で悩みをかかえこんでいくことはなかった。

ウ 課題
○初任者研修推進委員会のメンバーでない先生に理解を得たり，決まった研修以外でも協力体制をつくっていくには文書をまめに配布したりするなど働きかけが必要。

---

③　初任者の状況把握と初任者に対する相談体制の整備
ア 実際に取り組んだ内容
○昨年度立ち上げた「若人の会」を「オレンジの会」と改名して出発した。任用３年目までの教員以外にも臨時教員や任用１０年以内の教員が時として加わりながら，悩み事を話したりアドバイスをしたりと，リーダーを中心として適宜開催していた。年間２０回を超えてメンバーが集まり，親睦を深めながら一人で悩んで孤立感を味わうことのないように支

え合っていた。
○オレンジの会では，悩み事相談だけではなく，参観日の授業や研究授業の指導案の相談などについてもアドバイスをしていた。
○いろいろな情報交換した中で，報告の必要を感じたことについては，先輩教員の方から総括に連絡があった。

イ 成果
○メンバー同士の親睦が深まり，何でも相談できる体制ができた。３年目の教員が初任者や２年目の教員に積極的に声かけをし，問題をかかえていないか常に気を配っていた。
○学習指導・生徒指導・学級経営等が相談の中心であったものの，教員同士の人間関係の悩みについても話しやすい雰囲気ができていた。

ウ 課題
○来年度も継続していくにあたり，新しいリーダーが後を引き継ぎ，初任者に寄り添える体制作りをすることが課題である。

オレンジの会での話合いの様子

---

④ その他
ア 実際に取り組んだ内容
○全教職員が初任者研修に関わり，全員で初任者を育てようとする体制づくりをした。まず，教職員にアンケートをとり，「授業を公開する・技術指導をする・講話をする」の３つの中から選んでもらい，実施希望時期と内容について書いてもらった。それをもとに，年間計画をたてて実施した。

先生方の希望表をもとに作成した研修計画

初任者研修　授業・技術指導・講話計画
2015北島小学校

	授業研修	
５月	木下教諭	社会（６Ｃ）平安時代
	藤本み教諭	生単（支援）いちごカフェ
６月	吉岡教諭	社会（４Ｃ）水はどこから
	松永教諭	学活（４Ｂ）学級会
	矢野教諭	生活（１年）学校探検
	杉本教諭	国語（１年支援）ひらがなの学習
	麻植教諭	算数または国語(進度に応じて)（５Ｃ）
７月	福原教諭	書写（３Ｃ）毛筆（右払い）
	新居教諭	音楽（４Ｂ）拍の流れにのって
９月	和田教諭	学活（１Ｃ）パワーポイントを使った防災教育
	小野寺教諭	体育（４Ａ）マット運動
	大島教諭	英語（６Ａ）未定
	藤島教諭	算数（２Ａ）ふえたりへったり
１１月	木内教諭	体育（６Ｂ）ネット型ゲーム
	川人教諭	理科（４Ｃ）ものの温度と体積

	技術指導	
６月	田中な教諭	体操指導
	大西助教諭	耕耘機の使い方
７月	下山教諭	水泳指導
８月	高柳教諭	陸上指導
９月	伊丹教諭	花子を使った教室掲示
１０月	辻教諭	特活の初めの一歩
１１月	川西校長	サッカー教室
	住田教頭	発声指導

	講話	
５月	田中け教諭	ノート指導について
６月	前田教頭	服務について
	小川事務長	事務手続きについて
	服部養護教諭	保健室のきまり
	河野校務員	校務員の仕事
７月	曽根教諭	１年生初めの１週間の指導
	藤本し教諭	初任研を終えて２年目に感じること
９月	塚原教諭	中学校での生徒指導

イ　成果

○初任者がたくさんの授業を参観できたことで，全学年の子どもたちの様子が見え，発達段階に応じた指導の工夫を知ることができた。

○インフォーマル研修として幅広い研修を受けることができ，初任者にとって，これからの教員生活に役立つたくさんの情報を得ることができた。

○普段話す機会のない教員とも関わり合えた。

参観授業

実技講習

講話

ウ　課題

○全教職員が初任者研修に協力する体制をつくり，それを推し進めていくには，連絡調整をする教員が必要だ。

視点(2)　研修等の内容の充実について

①　初任者の年間の勤務，初任者の校務（担任・副担任・TT担当等）を見通した研修内容や指導方法の工夫

ア　実際に取り組んだ内容

○副担任の初任者Ｂの来年度に向けた独り立ちのために，１学期後半から国語・算数・理科の３教科は単元ごとに正担任とどちらが受け持つかを決めて，授業の回数を増やした。
また，10月からは，国語と算数はすべて初任者Ｂが受け持つようにし，11月中旬からは５年生への家庭科の入り込みをやめ，朝から帰りの会までを学級事務を含めて担任として生活を送るようにした。昨年度の反省から正担任から副担任への仕事の移行を早い時期に開始した。

イ　成果

○子どもたちと接する時間が増えることで，児童理解がさらに深まったことと，子どもたちもずっと学級でいてくれる初任者Ｂに安心し，信頼をよせるようになった。

○授業時数が増えたことで，授業スキルが大きく伸びた。

ウ　課題

○正担任が副担任に仕事を移行していくにつれて，子どもたちに混乱をきたさないようにど

う見守りの体制に入っていくかは課題である。

---

② 0JTによる研修と直接指導による研修のバランス

ア 実際に取り組んだ内容

○初任者Ａは臨時教員の経験があり，学校現場に慣れているため最初から0JTによる研修を多くし，大学卒業したてで学校現場が初めての初任者Ｂは直接指導を１学期当初は多くとった。

○学校行事や集会活動・体験活動など学年での活動や学習の進め方などについては、学年主任を中心とした学年の0JTにまかせ，同じ歩調で進むようにした。

イ 成果

○初任者Ａは経験が豊富なため，安心して任せられる部分が多かった。しかし，常に振り返りをさせながら正していくよう指導を怠らないようにした。

○初任者Ｂは，１学期に正担任の学級経営や授業の仕方を間近で見て学んでいくようにした。また，参観授業で，いろいろな先生方の授業を見せてもらう際にも見るポイントを示し，有意義な研修となるように努めた。

○初任者Ｂは，１学期後半から徐々に授業回数を増やし，0JTによる研修へと移行していった。

ウ 課題

○0JTと直接指導による研修も初任者の力量に合わせてバランスをとらないと初任者の意欲をそいでしまうので，見極めが大切である。

---

③ 研修のノウハウの蓄積方法

ア 実際に取り組んだ内容

○実践授業は，指導案と共に授業力自己評価シートを記入してもらった。５つの観点で自己評価をするとともに反省や質問を記入する欄をもうけた。授業研修担当の教員は，質問に答えたり，授業を見ての感想やアドバイスを書くようにした。

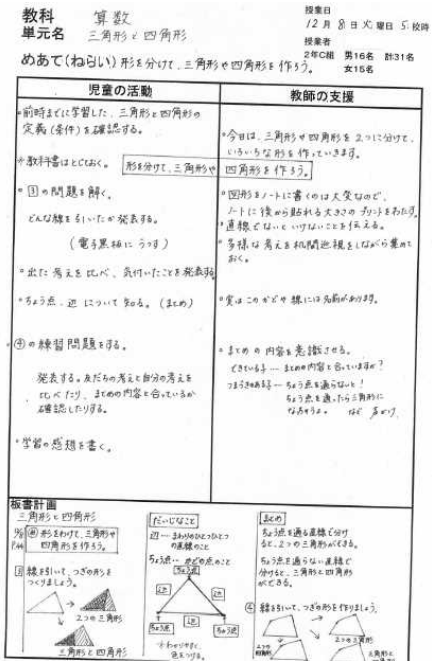
○初任者研修に関する書類はすべて一つのファイルに綴じたので，それを見ればすべてわかるようになっている。また，データがあるものは職員の共有ホルダーに保管している。

○教職員全員が初任者に関わってくれた研修については，初任研レポートとしてまとめ，印刷し配付する。

イ 成果

○自己評価シートを書きためていくことにより，授業の振り返りができ，今後の参考となることが期待できる。

○自己評価シートは初任者と授業研修担当者２人だけのやりとりではなく，校長・教頭・教務主任・総括が目を通すようにしているので，管理職も初任者の成長ぶりが確認でき，悩みに対して声かけもできた。



教科　算数
単元名　三角形と四角形

授業日　12月8日(火)曜日　5校時
授業者
2年C組　男16名　女15名　計31名

めあて(ねらい)　形を分けて、三角形や四角形を作ろう。

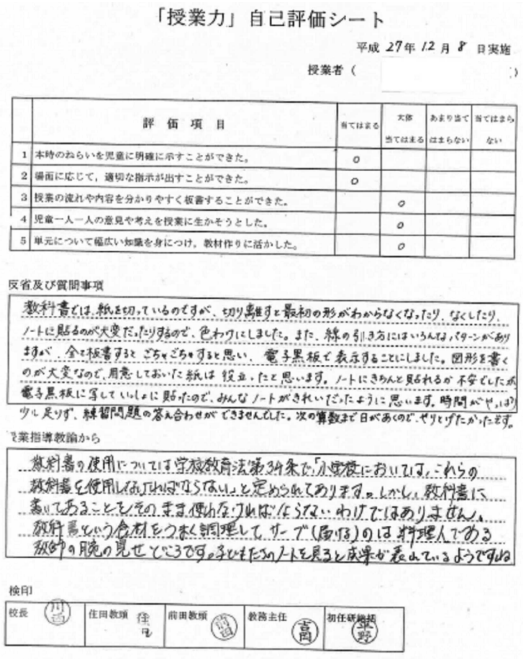
児童の活動	教師の支援
・前時までに学習した、三角形と四角形の定義(条件)を確認する。	・今日は、三角形や四角形を2つに分けて、いろいろな形を作っていきます。
・教科書をとじておく。 形を分けて、三角形や	四角形を作ろう。
・①の問題を解く。 どんな線を引いたか発表する。 (電子黒板にうつす)	・図形をノートに書くのは大変なので、ノートに後から貼れる大きさのプリントをわたす。 ・直線でないといけないことを伝える。 ・子供は考えを机間巡視をしながら集めておく。
・出た考えを比べ、気付いたことを発表する。	
・ちょう点、辺について知る。(まとめ)	・実はこのガイド線には角度があります。
・④の練習問題をする。 発表する。友だちの考えと自分の考えを比べたり、まとめの内容と合っているか確認したりする。	・まとめの内容を意識させる。 できている子… まとめの内容と合っていますか? つまずいている子… ちょう点を通らない直線と ちょう点を通ったら三角形になりそう。 など 多くの子
・学習の感想を書く。	

板書計画
三角形と四角形
めあて ④形をわけて、三角形や四角形を作ろう。
①線を引いて、つぎの形をつくりましょう。
2つの三角形
三角形と四角形

だいじなこと
辺…まっすぐのひとつながりの直線のこと
ちょう点…辺と辺のこと
ちょう点
辺
辺
ちょう点
辺
ちょう点
手わけすれば、色えつけも。

まとめ
ちょう点を通る直線で分けると、2つの三角形ができる。
ちょう点を通らない直線で分けると、三角形と四角形ができる。
④線を引いて、つぎの形を作りましょう。
2つの三角形
4角形と5角形

実践授業　指導案



「授業力」自己評価シート

平成27年12月8日実施
授業者（　　）

	評価項目	当てはまる	大体当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
1	本時のねらいを児童に明確に示すことができた。	○			
2	場面に応じて、適切な指示が出すことができた。	○			
3	授業の流れや内容を分かりやすく板書することができた。		○		
4	児童一人一人の意見や考えを授業に生かそうとした。		○		
5	単元について幅広い知識を身につけ、教材作りに活かした。		○		

反省及び質問事項
教科書では、教えて知っているのですが、切り離すと最初の形がわからなくなったり、なくしたり、ノートに貼るのが大変だったりするので、色わけにしました。また、線の引き方にはいろんなパターンがありますが、全て板書すると ごちゃごちゃすると思い、電子黒板で表示することにしました。図形を書くのが大変なので、用意しておいた紙は 役立ったと思います。ノートにきちんと貼れるか不安でしたが電子黒板に写していしょに貼ったので、みんなノートがきれいだったように思います。時間がやや、はみ出 足りず、練習問題の答え合わせができませんでした。次の算数は日があいので、ぜひとげたいです。

教業指導教諭から
教科書の使用については学校教育法第34条で「小学校においては、これらの教科書を使用しなければならない」と定められています。しかし、教科書に書いてあることをそのまま機械的に教えなければならない、わけではありません。教科書という教材をうまく調理して、サ（ア）ビ（ス）のは料理人である教師の腕の見せどころです。子どもたちのノートを見ると工夫が表れているようですね。

検印

校長	教頭	住田教頭	前田教頭	教務主任	初任研担当
		住田		吉岡	野

自己評価シート

研究授業　初任者Ａ　２年　国語

研究授業　初任者Ｂ　４年　算数

2015年度
初任研レポート
授業公開・技術指導・講話の記録
北島小学校

初任研レポート

矢野先生には、一般研修の時間に人権教育についてお話をしていただいたり、宿泊訓練前に阿波踊りの男踊り・女踊りのそれぞれのこつをしっかり教えていただいたりして、たいへんお世話になった。

松永教諭　学活　4B
「4Bのはたをつくろう」という議題で、3つの柱にそって話合い活動を進めていた。司会にすべてをまかせ、先生はずっと黙っていたが、司会に手順カードを渡しておいたり、TVに発表の仕方を映しておいたりするなど、手立ては整えていた。振り返りをするところで、子どもたちが友達一人ひとりの頑張り気づいているところがよかった。学級会は始めて聞もないということだったが、じっと見守りながら育てていくことが大事だと学んだ。最後の先生のお話のところで、よかった点・改善点を簡潔に話されていて、これを繰り返していくことで、スムーズな話合いができるようになるんだとわかった。

新居教諭　音楽　4B
「音楽でリズム」という学習で、3つのリズムを使ってリズム符を作り、それに言葉をつけていた。「ピン・トッ・トッ・トッ」という音を流し、リズム、拍の速さをつかませていた。また、リズムに合わせて練習させることで、小節のずれに気づかせていた。発問によって子どもたちが小節について考えたり、先生が身振り手振りで楽しく小節の区切りを説明したりしてわかりやすく印象に残りやすいと感じた。リズム作りは、色別に貼るようにしていたので、時間短縮もでき、置き換えもしやすくて真似したいと思った。

7月
福原教諭　書写　3C
「はらい」の筆づかい名人になろうという単元で、右払いの指導を見せていただいた。うずら笛の音でピー…（左払い）ピーピッ・ピー…（右払い）と力の入れ具合を表現し、子どもたちに覚えさせているのが素敵だと感じた。始めに指の体操をし、姿勢・筆の持ち方・席を立たない等の約束事を徹底させているのを見て入門期の書写指導について学ばせてもらった。
福原先生には後日、一番最初に書写指導をする際の指導法について詳しく教えていただいた。鉛筆を正しくもつ練習用のミニボールや足をきちんと床につける足踏箱などのアイデアグッズの紹介も楽しかった。

麻植教諭　算数　5C
「合同な三角形をかこう」というめあてで、合同について確認した後、図形をかくための決まり（条件）を思い出してかいていた。できあがったら、トレーシングペーパーを合わ

細かなアドバイスが順を追って書かれていて、実際に私たちもその通りに実践してみた。きれいで声量のある声を育てていくのは地道な取り組みをこうやって繰り返していかなければならないことがよくわかった。最後にみんなで歌った「翼をください」は気持ち良く歌えた。今年度私たちは2人とも音楽を指導していないのが残念だ。来年度以降機会に恵まれたなら、ぜひ、教えていただいたことを実践していきたい。

1月
川西校長　サッカー指導
サッカーは接触した際に帽子で相手の目を傷つける可能性があるので、ビブスを着用させて帽子はかぶらせないようにとの注意が最初にあった。実技指導では、まずインナイドキック・インステップキック・アウトサイドキックのそれぞれのけり方について説明をしてくださった。次にボールの止め方について足の裏・もも・胸で止める場合の仕方と注意点について話してくださった。私たちは実際にサッカーボールを使いながら基本の動きを確認した。最後にチームに分かれてミニゲームを行った。久しぶりのゲームにみんな夢中になって取り組むことができた。校長先生は、体育は運動量を確保することが大切ということで、こうした方が子どもたちが生き生きと活動できるというポイントもいくつか示してくださった。1時間弱の短い時間だったが有意義な時間をすごすことができた。

講話

5月
田中麻子教諭　ノート指導について
田中先生は、板書をノートにそのまま書かせるので、事前に授業準備として子どもたちに書かせるとおりに自分のノートに1日分を書きためている。
教師になってから、今まで書いてきたノートを保管しているようで、その一部を見せてくださった。また、教科や単元での先生なりの工夫を聞かせていただき、とても参考になった。
特に理科や社会では、資料の部分を印刷して貼らせ、その説明を書かせていた。後で見てよく分かるノートとなっていた。

研究授業　初任者Ｂ　４年　算数

ウ 課題
○たくさんの資料や記録を保存しているのを、来年度活用できるように引き継ぎを確実にするようにする。

---

④　その他
ア 実際に取り組んだ内容
○夏の個人懇談に際して，初任者に懇談の進め方や保護者への話し方などについて指導し，当日に臨むようにした。初任者Ａは，懇談後にどのような内容であったかを総括に報告し，その対応の仕方を話し合った。初任者Ｂは，正担任が行った懇談の報告を受けて問題を共有した。
○冬の個人懇談は，初任者Ａ，Ｂとも一人で行い，保護者へ子どもたちの成長を伝えるとともに保護者の願いを受け止めた。
○日頃から危機意識を高めるよう初任者に対して指導をしてきた。常々，授業（体育・理科・図工等）や防災での「安全」を念頭におき，いざという時に的確に状況判断ができるよう，実技や授業中等，時宜に応じた指導を心がけた。

イ 成果
○保護者対応について学び，初任者Ａ，Ｂとも保護者からの信頼を得ていた。
○安全への意識が高まり，理科の実験も手順をきちんとふまえて静かに協力しながらできるよう子どもたちに指導できていた。

ウ 課題
○たくさんの保護者がいるので，こちらがよいと判断してしたことでも，様々な受け止め方があることを知っておく。